

尿石はわがままな 私の心だった

岡山県

小西

敏之



1999年、スーパールの社長から、接客技術向上のためにイエローハットのトイレ掃除を学んでいると聞きました。なぜトイレ掃除か？ トイレをきれいに、という当たり前のことが、接客とどう関係するのか理解できませんでした。

私は勤め先の店舗事業を統括する役でしたが、どう事業を立て直すか暗中模索の日々でした。現場からは「競合店に価格で負けている」といわれ、上からは「事業の黒字化」の任務を課せられて、連日日付が変わるまで働いていました。ストレスはピークに達し、職場や取引先様へ罵詈雑言を発する有様で、ついに家庭まで壊れてしまいました。

「溺れるものは、わらをも掴む」
倉敷のイエローハットに見学に行きました。素手、素足の徹底した掃除を見て、「目からウロコ」が落ちました。自分の店でもやってみようと思いましたが、大きな勇気が必要でした。しかし、これを乗り越えないと変わらないと思って、意を決し踏み出しました。

しかし、同じ道具で同じことをしても、小便器の水漉しの汚れが取れないのです。そこで、マイナスドライバーでこじると、鍾乳洞のように何層にもこびりついた尿石がビッシリこびりついていました。便器に「顔を洗って出直してこい」といわれているようでした。そこで気がつきました。この尿石は「私のわがままな生き方」だったのだと。この尿石を取ろうと、毎日奮闘しました。

生き方を猛省しました。すべての物を活かす、言うこととすることを一致させる、謙虚に生きる。数年後、部下が「最近顔が変わってきましたね」と言いました。
(写真 倉敷市立郷内中学校F校長。幼馴染との偶然の出会い：)

邪を破らずして 誠意を移し植ゆ

愛知県

大見学おおみ まなぶ



教員生活18年、大阪の原田隆史先生の私塾に通いました。そこで鍵山秀三郎相談役を知りました。早速便教会の高野修滋先生にご指導をお願いし、野球部の生徒とトイレ掃除を始めました。

そのうち、生徒に心の教育を

したいという強い気持ち湧き出て、鍵山相談役の講演会とトイレ掃除を計画しました。すると一部教員から反対を受けました。このことで、辛い思いをした教員が何人もいました。

そんな最中、相談役からお手紙をいただきました。「大見先生、その反対される先生方にお返しをしてはいけませんよ」「邪を破らずして、誠意を移し植ゆ」と。

相談役は、私の心の中がわかるようでした。温かい励ましとご指導でした。その後相談役にご来校いただいたときには、以前にも増して良い心を持つ大切さを感じました。

2019年、校長を拝命しました。月一回のトイレ掃除をはじめ、便教会の輪も広がるかなと

思っていたところ、新型コロナウイルスの発生で、学校活動が休業となりました。この2か月間、土曜日曜に一人でトイレ掃除をしました。一つ終えるのに5時間以上かかりました。一緒にやってくれる先生はいたと思えますが、三密回避のために一人で行いました。

今900余名の生徒を司る長として、日本を支える若者を育てなければと、強い使命を感じています。掃除、特にトイレ掃除の実践こそ心の教育になると考えています。続ける力、気づく力、凡事徹底―わが校生徒の心の根を育んでいきます。

改めて、小さな実践の積み重ねの重要性を強く感じています。教師としてすぐに結果を求めないことも学びました。

国風の誇りである 清浄な営みの継続

福岡県 村瀬 孝平



38年間の教師生活で、3度の学校が全面新築移転する年に転勤赴任を体験しました。

2校目の稲築志耕館のとき、ある先生から『日々これ掃除』という本を紹介され、2000年2月福岡イエローハットで掃除研修を受け、「日本を美しくする

会」とのご縁ができました。

同年4月、二十数年経過した校舎の春日高校に異動しました。課題は校舎内外の環境整備でした。そこで学校のモットーを

「世界に誇れる美しい学校をめざして」と掲げました。当初先生方には、「世界」でなく「宇宙」が良いのではとの冷やかな声もありましたが、「隗より始めよ」と、自ら先頭に立ちました。実践例を3点述べます。

一つ目は、学校周辺の掃除です。学校に通じる橋桁や壁面の落書き消し、登下校に利用する駅の階段、広場の清掃をしました。この取り組みは生徒会活動へと広がり、地域貢献の一助となりました。

二つ目は、校舎敷地と通勤・

通学路の清掃です。新任の先生方にも参加いただき、小中学生徒さんたちと交わす挨拶は楽しい思い出としてあります。

三つ目は、校舎内のトイレ掃除です。留意したのは、洗面台の、竹筒に入れたペットボトルの花瓶に野花を飾ることです。花は使う人の目に入り、日々水を交換すると日持ちします。この習慣によって、生徒さんに生命の尊さを感じてほしいと願いました。

以上により、職員・生徒・保護者がまとまり、学力が向上し、校内施設の破損もなくなり、地域の信頼が高まったと実感しました。これからも鍵山先生、田中顧問、利会長、廣瀬ご夫妻に学びつつ、「掃除道」に努めます。

「時を守り、場を浄め、 礼を正す」生き方

京都府

横井 康よこい やすし



国民教育者森信三先生の、「時を守り、場を浄め、礼を正す」を、生涯「凡事徹底」として実践しておられるのが鍵山秀三郎先生だと思えます。

2013年「合同読書会」に参加して以来、「人間学塾・中之島」、「実践人の家」、「京都ちおん舎読

書会」、「京都掃除に学ぶ会」を通して、森信三先生の教えと鍵山秀三郎先生の実践を学んでまいりました。

公認会計士として関わってきた利害関係のある交流から、肩書きではない心の交流が拡がり、ありがたく思っています。

それまで「場を浄める」が、家の中だけであったのが、学校や公衆のトイレ掃除、街頭ゴミ拾い、草抜き、石畳磨きに拡がりました。尿コシの汚れに無心で向き合い、目の前のゴミに「ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる」と念じ、草は一本一本生え方に応じて丁寧に抜くようにしています。

実践から「掃除道」の意味を実感し、その厳しきや感動を仲間と共有することで、見える世界が

違ってきました。他を思いやる凛とした生き方を目指すようになり、少しずつ自分が変わってきている気がします。

「氣」の違いを感じる掃除後の清々しき、また子どもたちの感想に感動して心が洗われます。

掃除の大会への参加、裏方の仕事、また仲間とのご縁の拡がりも魅力です。これらのことも自身の健康、家族の健康と支えがあって初めてできると、最近つくづく思っています。

これからも「場を浄める」を実践し、「やっておいて良かった生き方」を「人生二度なし」の教えとともに、常に腰骨を立てて取り組んでいきたいと思えます。

(616-8214 京都府京都市右京区常盤古御所町

ありがとう掃除道

福島県

白石

光三



私は、福島県の「郡山掃除に学ぶ会」に所属しております。勤務先で総務部に異動となつて、前任者から掃除の会の活動を引き継ぎました。

掃除初参加は、2015年3月ころの郡山掃除に学ぶ会のリーダー研修でした。素手で便

器を磨いてピカピカにした感動は忘れられません。以来年次大会や街頭清掃などに参加しております。

私が掃除の魅力のとりこになった理由をあげます。

まず清掃の後の達成感です。たとえ小さい目標でも、挑戦して成しとげたときの満足感や、掃除のやり方を参加者に教え、彼らの喜びの声を耳にしたときの喜びなどがあります。

また皆さまの掃除道具や掃除のやり方など、一つひとつをきちんとやり遂げる「こだわり」にも感銘を受けています。

二つ目は、掃除に携わる方々の志の素晴らしさです。会が始まる前には、会場の段取りや道具の準備、清掃の後は、会場の片付

け、掃除用具の整備などをされています。見えないところで裏方をされている世話人や先輩たちの、誠実で謙虚な生き方にとても共感いたします。

そして、利害関係のないクリーンな人間関係です。誰かのせいにして批判することもなく、掃除が終わると、みんなが感想や反省を共有して新たな気づきを得ます。みんなが「志」や「やりがい」を持つて活動していると感じます。

私は毎朝、鍵山相談役のメルマガ「一日一話」を読みながら、掃除は、生き方や仕事にも活きて、人生を豊かにする尊い活動であり、「やっついてよかった」と実感します。これからも感謝の気持ちをお忘れず、誠実な自分でありたいと思います。

「掃除」と出会い26年

石川県

市山 いちやま
勉 つとむ



1996年のある研修で、鍵山相談役の『日々是掃除』という本に出会いました。経営＝売上・利益の考え方だった私には、相談役の掃除に込めた思いが世間に広がっていった事実は衝撃でした。夢中で一晩で読み終え、感動して涙が止まりませんでした。

翌朝から自己流で毎日会社のトイレ掃除を始めました。1999年、イエローハット金沢営業所で、

そして翌月東京のイエローハット本社でトイレ掃除研修を受け、相談役にもお会いしました。

相談役の掃除のやり方と凡事徹底のお考えの深さにとても感銘をうけ、その後各地の大会や全国大会に参加いたしました。

2002年、金沢掃除に学ぶ会（2019年石川掃除に学ぶ会に改称を立ち上げました。相談役や多くの掃除に学ぶ会の方々のご支援をいただいて、県内の多くの学校や企業で、掃除の素晴らしさを伝えてきました。

そのご縁で、この数年「中学校のときにトイレ掃除に参加した」「高校生の部活で参加した」という

子たちが、当社に入社して来るようになりました。

2013年、倫理法人会と連携し、謙虚に学ぶ会「謙学会」という勉強会を立ち上げました。数社の社長にお声かけし、20名くらいの事務局スタッフで月に一回実施しており、今も続いています。

地元企業の社員教育を兼ねた、いわば異業種交流会は好評で、前中に掃除研修、午後講演やビデオ視聴など、夕方の懇親会の、3点セットのプログラムです。「学び」と「実践」をセットにしたこのような活動が、各地にできると良いなと思っています。

38歳の時に鍵山相談役と掃除に出会えて、本当に良かったと感じしております。

(921 8155 石川県金沢市高尾台3丁目147-7)

鹿児島掃除に学ぶ会の歩み

鹿児島県

新富

勇一



1996年11月、第1回「鹿児島掃除に学ぶ会」を280名の参加で開催致しました。

一日目は、はがき道の坂田道信先生、志ネットワーク代表(元松下政経塾塾頭)上甲晃先生の講演と、全国から応援にご参加の皆様との交流会、二日目は、国分

南中学校でのトイレ掃除研修でした。以来2ヶ月に1回開催し、2022年7月で179回を数えます。

2004年10月、第5回「全国大会in鹿児島」(チェスト)、魂の原点を1200名のご参加で開催。講演は、書道家の柏木白光先生で、連獅子の衣装を着て書のパフォーマンスは圧巻でした。

この時ご参加の鹿児島県教育次長高田肥文様が、後に霧島市教育長になられ、ご発案の教師のトイレ掃除研修「洗心教育」は、現在も続いております。

2019年9月、第24回「鹿児島掃除に学ぶ会」年次大会が開催され、台湾美化協会より徐名誉会長初め40名様にご参加いただきました。

県内では、「鹿児島掃除に学ぶ会」に続き、徳之島、曾於、大口伊佐、大隅、さつま川内、ヨロン、指宿えい、鹿児島市、志布志、指宿市、沖永良部、薩摩隼人心洗組の12会が設立されました。私たちは、その応援も積極的に続けております。

また、隼人中学校3年生全員による「感謝のトイレ磨き」、南さつま市の「新入職員のトイレ掃除研修」、霧島市教育委員会の「洗心教育」などを、毎年当会でお手伝いさせていただいております。

鍵山相談役の「一人の百歩より、百人の一步」を目指し、引き続き県内を中心に、地域に根差した活動を続けてまいります。

感謝するから幸せになれる

東京都

長尾^{ながお}

司恵子^{しえこ}



なりました。

お掃除を続けているのおかげで、私に変化が起きました。

まず当時、離婚したばかりで、今は亡き夫への恨みや憎しみで苦しんでいるときでしたが、相談役から「攀念智(はんねんち)を持っている人は不幸になる」と教わり、それに気づきました。

そして私には2人の息子がいるというところに、夫への感謝の気持ち湧いてきたのです。すると驚いたことに、恨む気持ちが消えて心がとても楽になりました。

もう一つは、2007年に乳ガンになり手術をしました。再発するといけないから掃除にいくのはほどほどに、とも言われました。でも、再発を恐れて家にいるより、外に出てガンを忘れる方

がよいと思い、3か月後に掃除の会に復帰し、5か月後にはニューヨークのお掃除に参加しました。

おかげさまで、ガンは再発することなく、2011年から約8年間、お掃除の仲間と津波被災地の雄勝町立浜へ、毎月のように支援に行くことができました。

皇居の勤労奉仕では、当時の天皇、皇后両陛下のご会釈をいただく榮譽にもあずかりました。

心も体も元気だからできたことで、お掃除を続けてきたからこそ力が湧いたのだと思います。

相談役のおっしゃられたとおり、「幸せだから感謝するのではなく、感謝するから幸せになれる」体験をさせていただいているのだと思っています。

(194 0039 東京都町田市藤の台2-2-37 401)

私のお掃除のきっかけは、1996年ごろ、職場のお掃除のおじさんと行った(株)ローヤル主催の小学校のおトイレ掃除でした。その次が、お掃除の案内に惹かれて参加した、長野の円福寺。子どもたちの歓迎に感動し、お掃除の会に参加することが楽しく